

取 扱 説 明 書

CVFT-D シリーズ GP-IB/RS-232C インターフェース

プログラム Ver 1.00

第4版

製品を使用する前に注意深く読み、よく理解して下さい。

又、いつでも使用できるよう、大切に保管して下さい。



東京精電株式会社

本社・東京営業所	〒168-0081 東京都杉並区宮前4-28-21	TEL 03-3332-6666	FAX 03-3332-6672
長野営業所	〒386-0155 長野県上田市蒼久保1216	TEL 0268-35-0550 (営業直通)	FAX 0268-35-2895
工場・技術	〒386-0155 長野県上田市蒼久保1216	TEL 0268-35-0555 (代表電話)	FAX 0268-35-2895

目 次

ページ

1	概要	
1-1	GP-IB機能 (GP-IB付カスタム品のみ)	1
1-2	RS-232C機能	1
2	GP-IB/RS-232Cの設定	
2-1	GP-IBインターフェースを使用する場合 (GP-IB付カスタム品のみ)	2
2-2	RS-232Cインターフェースを使用する場合	3
3	GP-IB通信方法 (GP-IB付カスタム品のみ)	
3-1	GP-IBケーブル	3
3-2	ターミネータ	3
3-3	通信の手順	4
4	ステータスモデル	
4-1	サービスリクエストの発生	4
4-2	標準イベント・ステータス・レジスタ	5
4-3	本装置固有のイベント・ステータス・レジスタ0	6
4-4	各種レジスタの読出し、書込みコマンド一覧	6
5	RS-232Cインターフェースによる通信手順	
5-1	RS-232Cのデリミタ	7
5-2	通信の手順	7
5-3	通信設定	7
5-4	応答	7
6	コマンド一覧	
6-1	一覧表	8
6-2	コマンドリファレンス	10

1. 概要

GP-IB (GP-IB付カスタム品のみ) またはRS-232Cによる外部制御が可能です。

パネ操作により、使用するどちらか一方のインターフェースを選択します。

GP-IBインターフェースを選択した場合、RS-232Cインターフェースは動作しません。

RS-232Cインターフェースを選択した場合は、GP-IBインターフェースは動作しません。

1-1 GP-IB機能 (GP-IB付カスタム品のみ)

(1) リスナ機能

GP-IBインターフェースにより、出力電圧の設定、制限電流の設定、出力周波数の設定、出力電圧レンジ設定、出力ON/OFF等を行うことができ、ステータスレポートに関するコマンドを受け取ることができます。

(2) トーカ機能

設定情報や測定値を出力することができます。

(3) リモート・ローカルの切替ができます。

GP-IBからのコマンド受信でリモートモードに移行し、操作パネルの「LOCAL(I/F)」キーを押すことでローカルモードに移行します。

(4) サービスリクエスト

シリアルポートによりサービスリクエストを行うことができます。

(5) GP-IBインターフェースファンクション

分類	機 能
AH1	AHの全機能を有す
SH1	SHの全機能を有す
T6	基本的トーカ、シリアルポート、MLAでトーカ解除
L4	基本的リスナ、MTAでリスナ解除
SR1	サービスリクエスト機能あり
RL1	リモートローカル機能あり
PP0	パネレスポート機能なし
DC1	ディスプレイ機能あり
DT0	ディスプレイ機能なし
CO	コントローラ機能なし

1-2 RS-232C機能

RS-232Cコマンド“:MODE 1”により、リモートモードになり、“:MODE 0”にてローカルモードに戻ります。「LOCAL(I/F)」キーを押した場合も、ローカルモードに戻ります。

(1) 計測値やステータス情報、および設定値の読み出しは、リモートモード/ローカルモードとも可能です。

(2) 設定値の設定やON/OFF制御は、リモートモードの間だけ有効となります。

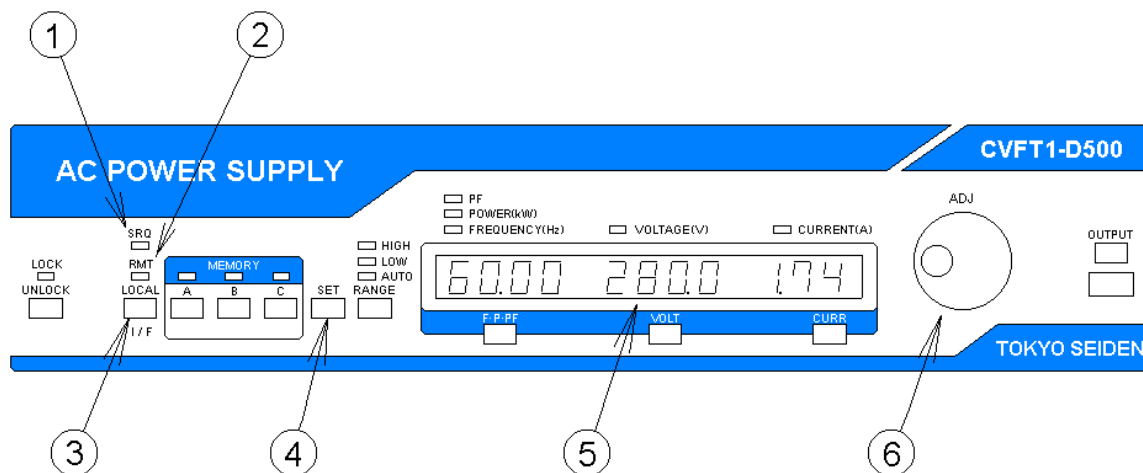
RS-232C側から電圧の設定や出力のON/OFFを制御する場合は、必ず:MODE 1コマンドを発行してリモートモードにする必要があります。

※リモートモード中、LOCALキーを除く操作パネルからの操作は行えなくなります。

また、リモートモード/ローカルモードに移行した際、設定値やステータス情報は移行前の値がそのまま引き継がれます。

2. GP-IB/RS-232Cの設定

GP-IB、RS-232Cのインターフェース設定は、本機操作により行ないます。



番号	名称	機能
①	「SRQ」LED	サービスリクエスト発行中、点灯します。
②	「RMT」LED	リモートモード中、点灯します。
③	「LOCAL (I/F)」キー	リモートモードをローカルモードに戻す時に押します。 RS-232C インターフェースのリモートモードもローカルモードに戻せます。 「LOCAL (I/F)」キーを押しながら「SET」キーを押すと、インターフェース設定モードに入ります。
④	「SET」キー	「LOCAL (I/F)」キーを押しながら「SET」キーを押すと、インターフェース設定モードに入ります。インターフェース設定モード中は、このキーにより設定が確定します。
⑤	表示機	インターフェース設定中は、各種設定項目を表示します。
⑥	「ADJ」ダイヤル	インターフェース設定中は、GP-IBアドレスや設定項目を選択する時、使用します。

2-1 GP-IBインターフェースを使用する場合

■GP-IBモードの選択

- (1) 「LOCAL (I/F)」キー③を押しながら「SET」キー④を押し、インターフェース設定モードに入ります。



- (2) 「ADJ」ダイヤル⑥を回して、表示機⑤に「GPIB」を表示させ、「SET」キー④を押しします。

「GPIb」は表示器の点滅を意味します。(以下の表示図でも同様です。)

なお、途中で設定を中止する場合は、「LOCAL (I/F)」キー③を押します。

■アドレスの設定

1つのシステムに複数の機器を接続するため、アドレスの設定をします。
0～30の値を設定できます。工場出荷時アドレスは1に設定されています。

A d d r	\		1	/
	/			\

(3) 「ADJ」ダイヤル⑥を回してアドレスを決定し、「SET」キー④を押します。

■送信ターミナタの設定

送信(装置→PC)時のターミナタ初期値(電源投入時の初期値)を設定します。

” LF ” ——— LF & EOI (工場出荷時の設定)

” crLF ” ——— CR + LF & EOI

E n d	\		L F	E O I
	/			

(4) 「ADJ」ダイヤル⑥を回して、” LF ”/” crLF ”を選択して「SET」キー④を押します。

2-2 RS-232Cインターフェースを使用する場合

(1) 「LOCAL (I/F)」キー③を押しながら「SET」キー④を押し、インターフェース設定モードに入ります。

I F	\		2 3 2 c	/
	/			\

(2) 「ADJ」ダイヤル⑥を回して、表示機⑤に” 232C ”を表示させ、「SET」キー④を押します。

3. GP-IB通信方法

3-1 GP-IBケーブル

GP-IB コネクタは、IEEE488-1978 規格の 24 ピンコネクタです。

1つのシステムに接続できる台数は15台までです。

3-2 ターミナータ

受信(PC→装置)時のターミナータは、CR+LF & EOI / LF & EOI / データ & EOI / LF のみのいずれの場合でも受付けます

送信(装置→PC)時のターミナータは、パネル操作にて設定(電源投入時の初期値)し、

” : TRANsmit : TERMinator ” コマンドによって変更可能です。

” : TRANsmit : TERMinator 0 ” ——— LF & EOI

” : TRANsmit : TERMinator 1 ” ——— CR + LF & EOI

3-3 通信の手順

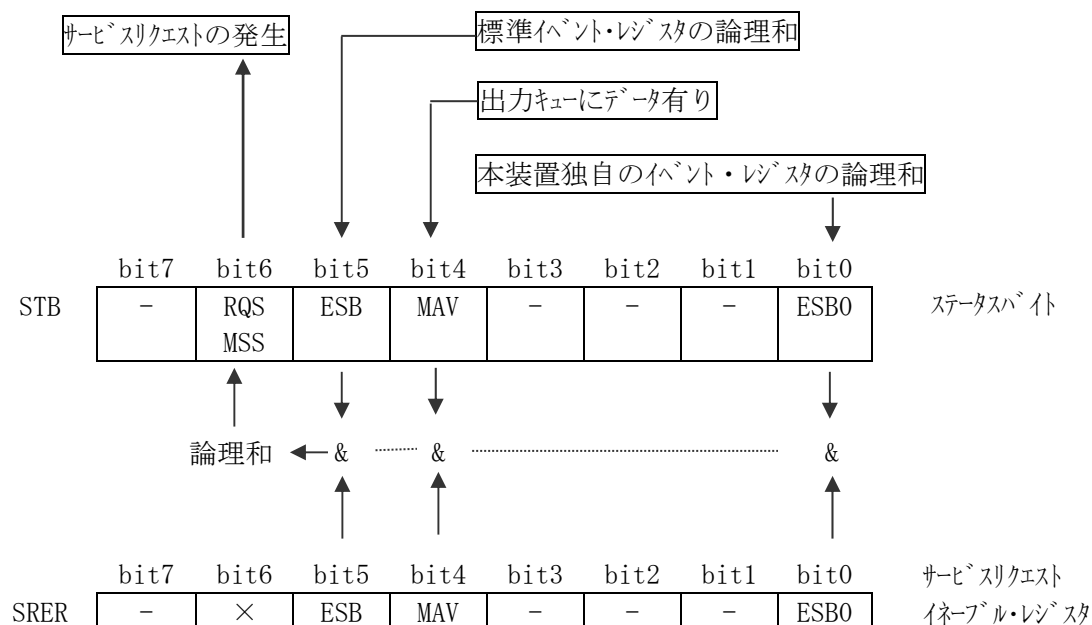
- (1) コマンドを送る際は、1 コマンド毎にターミネータを付け送信してください。
本装置はターミネータの受信でコマンド解析を行い、動作をします。
(コマンドの連続記述はできません。)
- (2) 本装置から応答を返すコマンドを送った場合は、その後本装置をトーカに指定しデータを取得してください。
データ取得前に次の応答を返すコマンドを受けた場合、前のデータは失われます。
(標準イベント・ステータスレジスタの QYE が 1 になります。)

4 ステータス・モデル

4-1 サービスリクエストの発生

本装置は、IEEE 488.2 で規定されている、サービスリクエスト機能を行うため次のステータスモデルとしています。

- (1) STB (ステータス・バイト・レジスタ) と SRER (サービスリクエスト・イネーブルレジスタ)



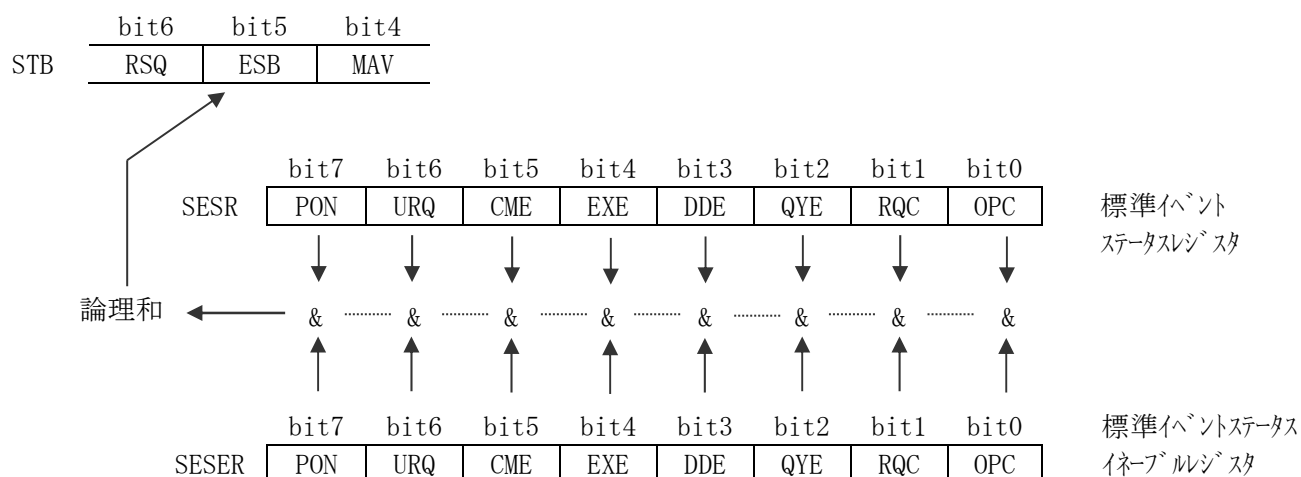
STB (ステータス・バイト・レジスタ) には、イベントレジスタと出力キューの情報がセットされ、SRER (サービスリクエスト・イネーブルレジスタ) によりセットされた bit と 論理積 をとり、それらの論理和により MSS (マスターステータスビット) がセットされます。
MSS がセットされる事で SRQ メッセージが発生し、サービスリクエストが発生します。

- (2) ステータス・バイト・レジスタの bit の説明

bit	記号	説明
0	ESB0	本装置固有のイベントステータスレジスタ 0 の論理和がセットされます。
4	MAV	出力キューにデータがあるとき 1 にセットされます。
5	ESB	標準イベントステータスレジスタと標準イベントステータスイネーブルレジスタの論理積を取りその論理和をセットします。
6	RQS	サービスリクエストが発生すると 1 になります。 (MSS が 0→1 の時セットされ、サービスリクエストか MSS が 0 でクリアします)
	MSS	ステータスバイトレジスタの他の論理和を表します。

4-2 標準イベント・ステータス・レジスタ

(1) 標準イベントステータスレジスタとステータスビットの関係



(2) 標準イベントレジスタの各ビットの説明

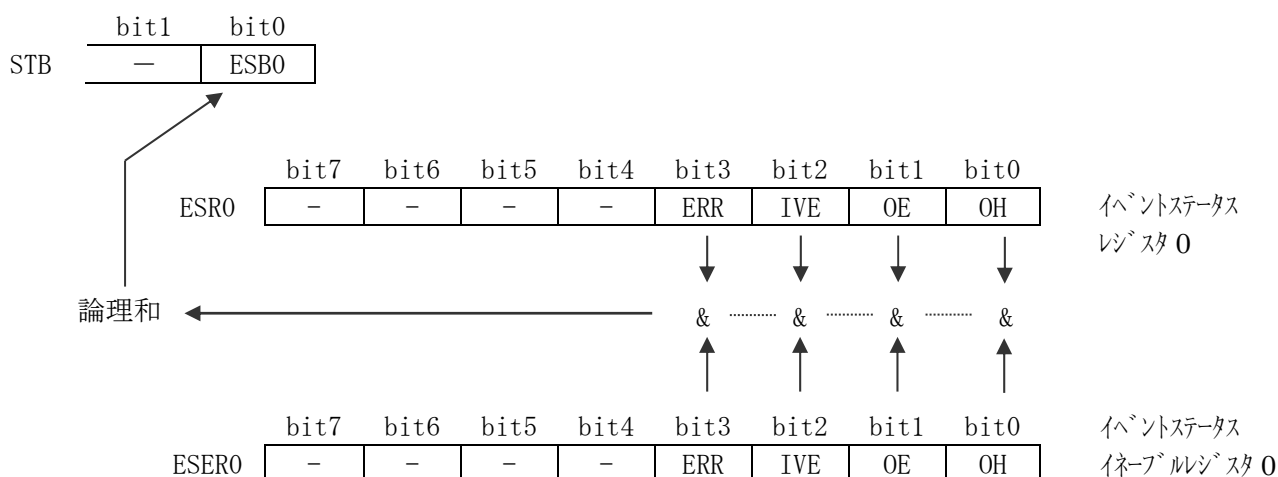
bit	記号	説明
0	OPC	動作完了 ”*OPC”コマンドを実効すると1になります。
1	RQC	コントローラ権の要求 本装置では使用しません。
2	QYE	クエリエラー 出力キューの異常により1になります。 ・出力キューが空の時、トカに指定された場合 ・出力キューのデータが失われた場合。 (出力キューのデータがある時、別の応答を要求するコマンドを受信した時)
3	DDE	機器に依存したエラー 本装置内部で異常があり、コマンドを実効できなかったとき1になります。
4	EXE	実効エラー 受信したコマンドが、実効できなかった場合、1になります。 ・設定データが範囲外の時 ・動作モードにより、コマンドを受け付けられない時
5	CME	コマンドエラー 受信したコマンドに文法エラーがある場合、1になります。 ・本装置にないコマンドを受信した時 ・コマンド、データに誤りがある場合 ・データの形式が違う場合
6	URQ	ユーザリクエスト 本装置では使用していません。
7	PON	電源投入フラグ 電源投入時、停電からの復帰時1になります。

標準イベント・ステータス・レジスタのクリア条件

- ・”*CLS”コマンドを受信した時
- ・”*ESR?”で SESR の内容が読み出された時
- ・電源再投入 (停電復帰) の時、クリアした後 PON をセットする。

4-3 本装置固有のイベント・ステータス・レジスタ 0

(1) 標準イベントステータスレジスタとステータスバイトの関係



(2) イベント・ステータス・レジスタ 0 の各ビットの説明

bit	記号	説明	対応エラーコード
0	OH	過温度異常 ・内部温度センサが動作すると 1 になります。	002, 003
1	OE	出力異常 ・出力異常の時 1 になります。	006, 007, 008, 009
2	IVE	入力電圧異常 ・入力電圧が規定値以外の場合、1 になります。	004, 005
3	ERR	装置異常 ・装置異常が発生した場合、1 になります。	001, 010, 011, 012, 098, 099

イベント・ステータス・レジスタのクリア条件

- ・“*CLS”コマンドを受信した時
- ・“:ESR0?”で ESR0 の内容が読み出された時
- ・電源再投入（停電復帰）の時

但し、異常状態が続いている場合は、再度 1 にセットされます。

4-4 各種レジスタの読出し、書込みコマンド一覧

記号	レジスタ	読出し	書込み
STB	ステータス・バイト・レジスタ	*STB?	---
SRER	サービスリクエスト・イネーブル・レジスタ	*SRE?	*SRE
SESR	標準イベント・ステータス・レジスタ	*ESR?	---
SESER	標準イベント・ステータス・イネーブル・レジスタ	*ESE?	*ESE
ESR0	イベント・ステータス・レジスタ 0	:ESR0?	---
ESER0	イベント・ステータス・イネーブル・レジスタ 0	:ESE0?	:ESE0

各種イネーブル・レジスタの電源投入時の初期値は 0 です。

サービスリクエストを使用する場合は、各種イネーブル・レジスタの相当する bit を 1 にして下さい。

5. RS-232Cインターフェースによる通信手順

5-1 RS-232Cのデリミタ

受信 (PC→装置) 時のデリミタは、CR+LF／ CR いずれの場合でも受付けます。
送信 (装置→PC) 時のデリミタは、CR+LF となっています。

5-2 通信の手順

- (1) コマンドを送る際は、1 コマンド毎にデリミタを付け送信してください。
本装置はデリミタの受信でコマンド解析を行い、動作をします。
- (2) RS-232Cインターフェースは、1 コマンド毎に必ず応答メッセージを返します。
- (3) 応答メッセージを確認してから次のコマンドを送ってください。
(送信データが多すぎる場合、通信がロックすることがあります。)

5-3 通信設定

(1) RS-232Cの設定

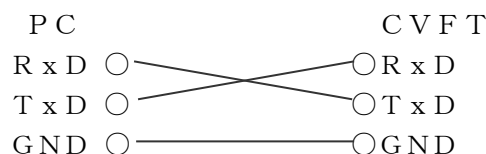
伝送方式	調歩同期式 全二重
ボーレート	9600bps
データ長	8 bit
パリティ	なし
ストップビット	1 bit
ハンドシェイク	なし (X フロー、ハードウェア共なし)
デリミタ	受信時：CR／CR+LF 送信時：CR+LF

(2) インターフェースコネクタ (D-sub 9pin オス)

2	RxD	受信データ
3	TxD	送信データ
5	GND	信号線用 GND

(3) ケーブル

パソコンとクロスケーブルで接続します。ハードウェアによるフロー制御はしていませんので、データ線と GND 以外は使用していません。



注) パソコン側で信号線を処理しないと、動作しない場合があります。

その場合、パソコン側のコネクタ CTS(8)-RTS(7)をジャンパしてください。

5-4 応答

RS-232Cによりコマンドを受信した場合、必ず以下のいずれかの応答を返します。

- ・正常に動作完了した場合 ----- ” OK ”
- ・コマンドの文法エラーの場合 ----- ” CMD ERR ”
- ・範囲外の設定など、実行できなかった場合 ----- ” EXE ERR ”
- ・コマンドが来て 10 秒以上デリミタが来ない場合 ----- ” TIME OUT ERR ”
- ・ハード異常などにより ----- ” SIO ERR ”

6. コマンド一覧

コマンドは短縮することが可能です。通常のコマンドを「ロングフォーム」、短縮したものを「ショートフォーム」といいます。この取扱説明書では、ショートフォームの部分を大文字で、残りの部分を小文字で表記しています。

6-1 一覧表

(1) 共通コマンド (GP-IB、RS-232C 共通)

コマンド	説明	ページ
*IDN?	メーカー名、型名、ソフトウェア・バージョンの問合せ	10
*RST	設定の初期化	10
*TST?	セルフテストとその結果問い合わせ	10
*CLS	各種イベント・レジスタとステータス・バイト・レジスタのクリア	10
*ESR?	標準イベント・ステータス・レジスタの問合せ	10

(2) 共通コマンド (GP-IB のみ)

コマンド	説明	ページ
*ESE	標準イベント・ステータス・イネーブル・レジスタの設定	10
*ESE?	標準イベント・ステータス・イネーブル・レジスタの問合せ	11
*OPC	動作終了時の SRQ 要求	11
*OPC?	動作終了時の問合せ	11
*SRE	サービス・リクエスト・イネーブル・レジスタの設定	11
*SRE?	サービス・リクエスト・イネーブル・レジスタの問合せ	11
*STB?	ステータス・バイト・レジスタの問合せ	11
*WAI	動作待ちウェイト	11

(3) 固有コマンド (GP-IB、RS-232C 共通)

コマンド	説明	ページ
:ESR0?	イベント・ステータス・レジスタ 0 の問合せ	12
:STOP	ストップ (OFF)	12
:START	スタート (ON)	12
:STATe?	出力 ON/OFF の問合せ	12
:CONFigure:VOLTage	出力電圧設定	12
:CONFigure:VOLTage?	出力電圧設定値の問合せ	12
:CONFigure:CURREnt	制限電流設定	12
:CONFigure:CURREnt?	制限電流値の問合せ	12
:CONFigure:FREQuency	出力周波数設定	13
:CONFigure:FREQuency?	出力周波数設定値の問合せ	13
:CONFigure:VRANge	出力電圧レンジの設定	13
:CONFigure:VRANge?	出力電圧レンジの問合せ	13
:CONFigure:LIMit:VOLTage	電圧設定リミット値の設定	13
:CONFigure:LIMit:VOLTage?	電圧設定リミット値の問合せ	13
:CONFigure:LIMit:CURREnt	電流設定リミット値の設定	14
:CONFigure:LIMit:CURREnt?	電流設定リミット値の問合せ	14
:CONFigure:LIMit:FREQuency	周波数設定リミット値の設定	14
:CONFigure:LIMit:FREQuency?	周波数設定リミット値の問合せ	14

コマンド	説 明	ページ
:MEASure:VOLTage?	電圧測定値の問合せ	14
:MEASure:VOLTage:Uv?	電圧測定値の問合せ (UV 間)	14
:MEASure:VOLTage:Vw?	電圧測定値の問合せ (VW 間)	14
:MEASure:VOLTage:Wu?	電圧測定値の問合せ (WU 間)	15
:MEASure:CURRent?	電流測定値の問合せ	15
:MEASure:CURRent:U?	電流測定値の問合せ (U 相)	15
:MEASure:CURRent:V?	電流測定値の問合せ (V 相)	15
:MEASure:CURRent:W?	電流測定値の問合せ (W 相)	15
:MEASure:FREQuency?	出力周波数の問合せ	15
:MEASure:POWer?	電力測定値の問合せ	16
:MEASure:PF?	力率の問合せ	16
:DISPlay:UVW	U/V/W 表示の設定	16
:DISPlay:SEGment:LEFt	表示機 (左側) の表示内容設定	16
:DISPlay:SEGment:CENter	表示機 (中央) の表示内容設定	16
:DISPlay:SEGment:RIGht	表示機 (右側) の表示内容設定	16
:MEMory:SAVE	現在の設定値をメモリーにセーブ	17
:MEMory:LOAD	メモリーの内容をロード	17
:MEMory:SETting:A	メモリー A 登録	17
:MEMory:SETting:A?	メモリー A 登録内容の問い合わせ	18
:MEMory:SETting:B	メモリー B 登録	18
:MEMory:SETting:B?	メモリー B 登録内容の問い合わせ	18
:MEMory:SETting:C	メモリー C 登録	18
:MEMory:SETting:C?	メモリー C 登録内容の問い合わせ	18

(4) 固有コマンド (GP-IB のみ)

コマンド	説 明	ページ
:ESE0	イベント・ステータス・イネーブル・レジスタ 0 の設定	19
:ESE0?	イベント・ステータス・イネーブル・レジスタ 0 の問合せ	19
:TRANsmit:TERMinator	応答メッセージのターミネータの設定	19
:TRANsmit:TERMinator?	応答メッセージのターミネータの問合せ	19

(5) 固有コマンド (RS-232C のみ)

コマンド	説 明	ページ
:MODE	RS-232C によりリモートモード/ローカルモードの切替え設定	20
:MODE?	RS-232C によりリモートモード/ローカルモード状態の問合せ	20

6-2 コマンドリファレンス

応答はGP-IBについて記載しています。

応答のないコマンドの場合、RS-232Cは”OK” またはエラーを返します。

機種による違いについては、(6) 機種依存値一覧 を参照してください。

(1) 共通コマンド (GP-IB、RS-232C)

*IDN? 内容 メーカー名、形式、ソフトウェア・バージョンの問合せ 構文 *IDN? 応答 “メーカー名”, “形式”, “シリアル No. ”, “バージョン” 機能 メーカー名、製品形式、シリアル No. (使用しないので 0)、 ソフトウェアバージョン の問合せをします。	例 PC >*IDN? CVFT >TOKYO-SEIDEN, CVFT1-D500, 0, V1.00
*RST 内容 本装置の設定を既知の値にします。(設定の初期化) 構文 *RST 機能 出力:OFF、出力電圧設定:0V、制限電流設定:最大値、 出力レシ:自動選択、出力周波数設定:50Hz。 また、データ校正値を EEPROM から読み込みます。	例 PC >*RST
*TST? 内容 自己診断テストの実行とその結果の問合せ 構文 *TST? 応答 0/1 (NR1 数値形式) 0 : OK 1 : 異常 機能 ROM のチェックサム照合を行います。	例 PC >*TST? CVFT >0
*CLS 内容 各イベント・ステータス・レジスタ (SESR、ESR0) のクリア 構文 *CLS 機能 SESR、ESR0 を 0 クリアします。 出力キューは影響を受けません。	例 PC >*CLS
*ESR? 内容 標準イベント・ステータス・レジスタの問合せ 構文 *ESR? 応答 0~255 (NR1 数値形式) 機能 標準イベント・ステータス・レジスタ (SESR) の内容を 0~255 の NR1 数値形式で返し、内容をクリアします。 bit7 bit6 bit5 bit4 bit3 bit2 bit1 bit0 128 64 32 16 8 4 2 1 PON URQ CME EXE DDE QYE RQC OPC	例 PC >*ESR? CVFT >160 SESR の bit7(128) と bit5(32) が 1 になっています。 読み出した後、SESR は 0 クリアされます。

(2) 共通コマンド (GP-IB インターフェースのみ)

*ESE 内容 標準イベント・ステータス・イネーブル・レジスタの設定 構文 *ESE <data> <data> 0~255 (NR1 数値形式) 機能 標準イベント・ステータス・イネーブル・レジスタ (SESR) の内容を 0~255 の NR1 数値形式で設定します。 bit7 bit6 bit5 bit4 bit3 bit2 bit1 bit0 128 64 32 16 8 4 2 1 PON URQ CME EXE DDE QYE RQC OPC	例 PC >*ESE 32 SESER の bit5(32) を 1 にします。 これによりコマンドエラーが発生すると ステータス・バイト・レジスタ (STB) の bit5 (ESB) が 1 になります。
--	--

ESE? 内容標準イベント・ステータス・イネーブル・レジスタの問合せ 構文 ESE? 応答0～255 (NR1 数値形式) 機能標準イベント・ステータス・イネーブル・レジスタ (SESR) の内容を0～255 の NR1 数値形式で返します。 bit7bit6bit5bit4bit3bit2bit1bit0 1286432168421 PONURQCMEEXEDDEQYERQCOPC	例PC >*ESE? CVFT >32 SESR の bit5(32) が 1 になっています。
OPC 内容動作終了時の SRQ 要求 構文 OPC 機能連続コマンドの受信ができないため、*OPC コマンドを受信すると直ちに、SESR の bit0 を 1 にします。	例PC >*OPC
OPC? 内容動作終了の問合せ 構文 OPC 機能連続コマンドの受信ができないため、*OPC?コマンドを受信すると直ちに、1 を返します。	例PC >*OPC? CVFT >1 直ちに 1 を返します。
SRE 内容サービスリクエスト・イネーブル・レジスタ (SRER) の設定 構文 SRE <data> 機能<data> 0～255 (NR1 数値形式) サービスリクエストを行う bit を 1 に設定します。 電源投入時は、0 に初期化します。 bit7bit6bit5bit4bit3bit2bit1bit0 1286432168421 - - ESBMAV- - - ESB0	例PC >*SRE 32 SRER の bit5(32) を 1 にします。 これによりステータス・バイト・レジスタ (STB) の bit5 (ESB) が 1 になると、MSS を 1 にし、サービスリクエスト (SRQ) を発行します。
SRE? 内容サービスリクエスト・イネーブル・レジスタ (SRER) の問合せ 構文 SRE? 応答0～255 (NR1 数値形式) 機能サービスリクエスト・イネーブル・レジスタ (SRER) の内容を0～255 の NR1 数値形式で返します。 bit7bit6bit5bit4bit3bit2bit1bit0 1286432168421 - - ESBMAV- - - ESB0	例PC >*SRE? CVFT >32 SRER の bit5(32) が 1 の場合、32 を返します。
STB? 内容ステータス・バイト・レジスタ (STB) の問合せ 構文 STB? 応答0～255 (NR1 数値形式) 機能ステータス・バイト・レジスタ (STB) の内容を0～255 の NR1 数値形式で返します bit7bit6bit5bit4bit3bit2bit1bit0 1286432168421 - - ESBMAV- - - ESB0	例PC >*STB? CVFT >16 SRER の bit4(16) が 1 の場合、16 を返します。
WAI 内容動作終了待ちウェイト 構文 WAI 機能前のコマンド動作が終了するまで待機させます。 本装置は、1 コマンドずつ実行するため、コマンドは受け付けますが、何もしません。	例PC >*WAI 何もしません。

(3) 固有コマンド (GP- I B、RS-232C)

:ESR0? 内容 標準イベント・ステータス・レジスタ 0 の問合せ 構文 :ESR0? 応答 0～255 (NR1 数値形式) 機能 イベント・ステータス・レジスタ 0 (ESR0) の内容を 0～255 の NR1 数値形式で返し、内容をクリアします。 <table><tr><td>bit7 128</td><td>bit6 64</td><td>bit5 32</td><td>bit4 16</td><td>bit3 8</td><td>bit2 4</td><td>bit1 2</td><td>bit0 1</td></tr><tr><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>ERR</td><td>IVE</td><td>OE</td><td>OH</td></tr></table>	bit7 128	bit6 64	bit5 32	bit4 16	bit3 8	bit2 4	bit1 2	bit0 1	-	-	-	-	ERR	IVE	OE	OH	例 PC >:ESR0? CVFT >2 ESR0 の値を返します。 出力異常の場合、bit1 が 1 となり、2 を返します。
bit7 128	bit6 64	bit5 32	bit4 16	bit3 8	bit2 4	bit1 2	bit0 1										
-	-	-	-	ERR	IVE	OE	OH										
:STOP 内容 電圧出力の停止 (OFF) 構文 :STOP 機能 電圧出力状態を停止 (OFF) 状態にします。	例 PC >:STOP 出力を停止します。																
:START 内容 電圧出力スタート (ON) 構文 :START 機能 電圧出力状態を発生 (ON) 状態にします。	例 PC >:STAR 出力を発生します。																
:STATE? 内容 出力の ON/OFF 状態の問合せ 構文 :STAT? 応答 0/1 (NR1 数値形式) 0 : OFF 状態 1 : ON 状態 機能 電圧出力状態の問合せをします。	例 PC >:STAT? CVFT >1 電圧出力が発生 (ON) 状態の時、1 を返します																
:CONF i gure:VOLTage 内容 出力電圧の設定 構文 :CONF i gure:VOLTage <data> <data> 0～280.0 (NR1 又は NR2 数値形式) 単位 V、小数点以下 1 桁まで指定できます。 CVFT3 シリーズは、0～240.0V の範囲となります。 機能 出力電圧の設定をします。	例 PC >:CONF:VOLT 100.5 電圧出力設定値を 100.5V にします。 インジ電圧の最大値やリミット設定を超える設定は、実行エラー (EXE ERR) となります。																
:CONF i gure:VOLTage? 内容 出力電圧設定値の問合せ 構文 :CONF i gure:VOLTage? 応答 0.0～280.0 (NR2 数値形式) 単位 V、小数点以下 1 桁の値を返します。 機能 出力電圧設定値を返します。	例 PC >:CONF:VOLT? CVFT >99.9 電圧出力設定値を小数点 1 桁までの値で返します。																
:CONF i gure:CURREnt 内容 制限電流の設定 構文 :CONF i gure:CURREnt <data> <data> 0～80.0 (NR1 又は NR2 数値形式) 単位 A、小数点以下 1 桁又は 2 桁まで指定できます。 設定範囲や小数点桁は、機種により異なります。 機能 制限電流の設定をします。	例 PC >:CONF:CURREnt 1.2 制限電流設定値を 1.2A にします。 インジ電流の最大値やリミット設定を超える設定は、実行エラー (EXE ERR) となります。																
:CONF i gure:CURREnt? 内容 制限電流値の問合せ 構文 :CONF i gure:CURREnt? <data> 0～80.0 (NR2 数値形式) 単位 A、小数点以下 1 桁又は 2 桁の値を返します。 範囲や小数点桁は、機種により異なります。 機能 制限電流の設定値を返します。	例 PC >:CONF:CURREnt? CVFT >1.2 制限電流設定値を小数点以下 1 桁又は 2 桁の値で返します。																

:CONFigure:FREQuency 内容 出力周波数の設定 構文 :CONFigure:FREQuency <data> <data> 10～1000 (NR1 又は NR2 数値形式) 10.0～99.9 (NR1 又は NR2 数値形式) 100～1000 (NR1 数値形式) 単位 Hz、100Hz 未満は小数点以下 1 桁まで指定 できます。 機能 出力周波数の設定をします。 45Hz 以下の設定については、出力電圧に制限がかかります。	例 PC >:CONF:FREQ 50.0 出力周波数設定値を 50.0Hz にします。 10Hz 未満やリミット設定を超える設定は、 実行エラー (EXE ERR) となります。 45Hz 以下の周波数設定は可能ですが 出力電圧に制限がかかり、最大電圧を 出力することはできません。 (出力トランス飽和防止のためです)
:CONFigure:FREQuency? 内容 出力周波数設定値の問合せ 構文 :CONFigure:FREQuency? 応答 10.0～99.9 (NR2 数値形式) 100～1000 (NR1 数値形式) 単位 Hz、100Hz 未満は小数点以下 1 桁の値を返します。 機能 出力周波数設定値を返します。	例 PC >:CONF:FREQ? CVFT >50.0 出力周波数の設定値を返します。
:CONFigure:VRANge 内容 出力電圧レンジの設定 構文 :CONFigure:VRANge <data> <data> 0/1/2 (NR1 数値形式) 機能 出力電圧レンジの設定をします。 0:レンジ自動選択 1:140V レンジ 2:280V レンジ 出力 OFF 時のみ設定可能です。 CVFT1 シリーズでのみ有効です。	例 PC >:CONF:VRAN 1 出力電圧レンジを 140V レンジに設定 します。 出力 ON 中は、実行エラー (EXE ERR) と なります。
:CONFigure:VRANge? 内容 出力電圧レンジの問合せ 構文 :CONFigure:VRANge? 応答 0/1/2 (NR1 数値形式) 0:レンジ自動選択 1:140V レンジ 2:280V レンジ 機能 出力電圧レンジの値を返します。 CVFT1 シリーズでのみ有効です。	例 PC >:CONF:VRAN? CVFT >2 出力電圧レンジの値を返します。
:CONFigure:LIMit:VOLTage 内容 設定電圧リミット値の設定 構文 :CONFigure:LIMit:VOLTage <data> <data> 10.0～280.0 (NR1 又は NR2 数値形式) 単位 V、小数点以下 1 桁まで指定できます。 CVFT3 シリーズは、10.0～240.0V の範囲となります。 機能 電圧設定のリミット値を設定します。 出力 OFF 時のみ設定可能です。	例 PC >:CONF:LIM:VOLT 220.5 電圧設定のリミット値を 220.5V にします。 設定範囲外の設定は、実行エラー (EXE ERR) となります。 出力 ON 中は、実行エラー (EXE ERR) と なります。
:CONFigure:LIMit:VOLTage? 内容 電圧設定リミット値の問合せ 構文 :CONFigure:LIMit:VOLTage? 応答 10.0～280.0 (NR2 数値形式) 単位 V、小数点以下 1 桁の値を返します。 機能 電圧設定リミット値を返します。	例 PC >:CONF:LIM:VOLT? CVFT >280.0 電圧設定のリミット設定値を小数点 1 桁ま での値で返します。

:CONFigure:LIMit:CURRent 内容 電流設定リミット値の設定 構文 :CONFigure:LIMit:CURRent <data> <data> 0.10~80.0 (NR1 又は NR2 数値形式) 単位 A、小数点以下 1 桁又は 2 桁まで指定できます。 設定範囲や小数点桁は、機種により異なります。 機能 電流設定のリミット値を設定します。 出力 OFF 時のみ設定可能です。	例 PC >:CONF:LIM:CURR 5.1 電流設定のリミット値を 5.1A にします。 設定範囲外の設定は、実行エラー (EXE ERR) となります。 出力 ON 中は、実行エラー (EXE ERR) となります。
:CONFigure:LIMit:CURRent? 内容 電流設定リミット値の問合せ 構文 :CONFigure:LIMit:CURRent? <data> 0.10~80.0 (NR2 数値形式) 単位 A、小数点以下 1 桁又は 2 桁の値を返します。 設定範囲や小数点桁は、機種により異なります。 機能 電流設定のリミット値を返します。	例 PC >:CONF:LIM:CURR? CVFT >1.25 電流設定のリミット設定値を小数点以下 1 桁又は 2 桁の値で返します。
:CONFigure:LIMit:FREQuency 内容 周波数設定リミット値の設定 構文 :CONFigure:LIMit:FREQuency <data> <data> 10~1000 (NR1 又は NR2 数値形式) 10.0~99.9 (NR1 又は NR2 数値形式) 100~1000 (NR1 数値形式) 単位 Hz、100Hz 未満は小数点以下 1 桁まで指定できます。 機能 周波数設定のリミット値を設定します。 出力 OFF 時のみ設定可能です。	例 PC >:CONF:LIM:FREQ 400 周波数設定のリミット値を 400Hz にします。 設定範囲外の設定は、実行エラー (EXE ERR) となります。 出力 ON 中は、実行エラー (EXE ERR) となります。
:CONFigure:LIMit:FREQuency? 内容 周波数設定リミット値の問合せ 構文 :CONFigure:LIMit:FREQuency? 応答 10.0~99.9 (NR2 数値形式) 100~1000 (NR1 数値形式) 単位 Hz、100Hz 未満は小数点以下 1 桁の値を返します。 機能 周波数設定のリミット値を返します。	例 PC >:CONF:LIM:FREQ? CVFT >50.0 周波数設定のリミット設定値を返します。
:MEASure:VOLTage? 内容 出力電圧測定値の問合せ 構文 :MEASure:VOLTage? 応答 0.0~300.0 (NR2 数値形式) 単位 V、小数点以下 1 桁の値を返します。 機能 出力電圧測定値を返します。 CVFT3 シリーズでは、UVW 選択されている線間電圧の測定値となります。	例 PC >:MEAS:VOLT? CVFT >100.0 出力電圧の測定結果を返します。 平均値検出、実効値換算の値です。
:MEASure:VOLTage:Uv? 内容 3 相 UV 間出力電圧測定値の問合せ 構文 :MEASure:VOLTage:Uv? 応答 0.0~300.0 (NR2 数値形式) 単位 V、小数点以下 1 桁の値を返します。 機能 UV 間出力電圧測定値を返します。 CVFT1 シリーズでは、出力電圧の測定値となります。	例 PC >:MEAS:VOLT:U? CVFT >100.0 UV 間出力電圧の測定結果を返します。
:MEASure:VOLTage:Vw? 内容 3 相 VW 間出力電圧測定値の問合せ 構文 :MEASure:VOLTage:Vw? 応答 0.0~300.0 (NR2 数値形式) 単位 V、小数点以下 1 桁の値を返します。 機能 VW 間出力電圧測定値を返します。 CVFT1 シリーズでは、コマンドエラー (CMD ERR) となります。	例 PC >:MEAS:VOLT:V? CVFT >100.0 VW 間出力電圧の測定結果を返します。

:MEASure:VOLTage:Wu? 内容 3 相 WU 間出力電圧測定値の問合せ 構文 :MEASure:VOLTage:Wu? 応答 0.0~300.0 (NR2 数値形式) 単位 V、小数点以下 1 桁の値を返します。 機能 WU 間出力電圧測定値を返します。 CVFT1 シリーズでは、コマンドエラー (CMD ERR) となります。	例 PC >:MEAS:VOLT:V? CVFT >100.0 WU 間出力電圧の測定結果を返します。
:MEASure:CURRent? 内容 出力電流測定値の問合せ 構文 :MEASure:CURRent? 応答 0.00~100.0 (NR2 数値形式) 単位 A、小数点以下 1 桁又は 2 桁の値を返します。 範囲 (FS) や小数点桁は、機種により異なります。 機能 出力電流測定値を返します。 CVFT3 シリーズでは、UVW 選択されている相電流の測定値となります。	例 PC >:MEAS:CURR? CVFT >1.50 出力電流の測定結果を返します。 実効値を測定しています。
:MEASure:CURRent:U? 内容 3 相 U 相出力電流測定値の問合せ 構文 :MEASure:CURRent:U? 応答 0.00~100.0 (NR2 数値形式) 単位 A、小数点以下 1 桁又は 2 桁の値を返します。 範囲 (FS) や小数点桁は、機種により異なります。 機能 U 相出力電流測定値を返します。 CVFT1 シリーズでは、出力電流の測定値となります。	例 PC >:MEAS:CURR:U? CVFT >1.50 U 相出力電流の測定結果を返します。
:MEASure:CURRent:V? 内容 3 相 V 相出力電流測定値の問合せ 構文 :MEASure:CURRent:V? 応答 0.00~100.0 (NR2 数値形式) 単位 A、小数点以下 1 桁又は 2 桁の値を返します。 範囲 (FS) や小数点桁は、機種により異なります。 機能 V 相出力電流測定値を返します。 CVFT1 シリーズでは、コマンドエラー (CMD ERR) となります。	例 PC >:MEAS:CURR:V? CVFT >1.50 V 相出力電流の測定結果を返します。
:MEASure:CURRent:W? 内容 3 相 W 相出力電流測定値の問合せ 構文 :MEASure:CURRent:W? 応答 0.00~100.0 (NR2 数値形式) 単位 A、小数点以下 1 桁又は 2 桁の値を返します。 範囲 (FS) や小数点桁は、機種により異なります。 機能 W 相出力電流測定値を返します。 CVFT1 シリーズでは、コマンドエラー (CMD ERR) となります。	例 PC >:MEAS:CURR:W? CVFT >1.50 W 相出力電流の測定結果を返します。
:MEASure:FREQuency? 内容 出力周波数の問合せ 構文 :NEASure:FREQuency? 応答 10.00~99.90 (NR2 数値形式) 100.0~1000.0 (NR2 数値形式) 単位 Hz、100Hz 未満は小数点以下 2 桁の値を返します。 機能 出力周波数を返します。	例 PC >:NEAS:FREQ? CVFT >50.00 出力周波数を返します。

:MEASure:POWer? 内容 電力測定値の問合せ 構文 :MEASure:POWer? 応答 0.00~15.00 (NR2 数値形式) 単位 kW、小数点以下 2 桁の値を返します。 測定値範囲は、機種により異なります。 機能 出力電力測定値を返します。	例 PC >:MEAS:POW? CVFT >4.95 出力電力の測定結果を返します。
:MEASure:PF? 内容 力率の問合せ 構文 :NEASure:PF? 応答 0.00~1.00 (NR2 数値形式) 単位 無し、小数点以下 2 桁の値を返します。 機能 出力の力率を返します。 $\text{力率} = \text{出力電力} / (\text{出力電圧} \times \text{出力電流})$	例 PC >:NEAS:PF? CVFT >0.95 出力の力率を返します。
:DISPlay:UVW 内容 U/V/W 表示の設定 (CVFT3 シーズのみ) 構文 :DISPlay:UVW <data> <data> 0/1/2 (NR1 数値形式) 機能 表示パネルの U/V/W 選択設定をします。 0:U (UV 間電圧、U 層電流) 1:V (VW 間電圧、V 層電流) 2:W (WU 間電圧、W 層電流) CVFT3 シーズでのみ有効です。	例 PC >:DISP:UVW 1 U/V/W 表示の V を選択設定します。
:DISPlay:SEGment:LEFt 内容 表示機(左側)の表示内容設定 構文 :DISPlay:SEGment:LEFt <data> <data> 0/1/2/3 (NR1 数値形式) 機能 7セグメント表示機(左側)の表示内容を設定します。 0:出力周波数 1:周波数設定値 2:電力表示 3:力率表示 周波数設定値表示では、設定値が点滅表示します。	例 PC >:DISP:SEG:LEF 2 表示機(左側)の表示を電力表示設定にします。
:DISPlay:SEGment:CEnter 内容 表示機(中央)の表示内容設定 構文 :DISPlay:SEGment:CEnter <data> <data> 0/1 (NR1 数値形式) 機能 7セグメント表示機(中央)の表示内容を設定します。 0:出力電圧測定値 1:出力電圧設定値 設定値表示では、設定値が点滅表示します。	例 PC >:DISP:SEG:CEN 1 表示機(中央)の表示を電圧設定値表示設定にします。
:DISPlay:SEGment:RIght 内容 表示機(右側)の表示内容設定 構文 :DISPlay:SEGment:RIght <data> <data> 0/1 (NR1 数値形式) 機能 7セグメント表示機(右側)の表示内容を設定します。 0:出力電流測定値 1:制限電流設定値 設定値表示では、設定値が点滅表示します。	例 PC >:DISP:SEG:RIG 0 表示機(右側)の表示を電流測定値表示設定にします。

:MEMoy:SAVE 内容 現在の設定値をメモリーにセーブ 構文 :MEMoy:SAVE <data> <data> 0/1/2 (NR1 数値形式) 機能 現在の設定(出力周波数、出力電圧、制限電流、出力電圧レンジ)を指定メモリーに格納します。 0:メモリー A 1:メモリー B 2:メモリー C 出力電圧レンジは CVFT1 シリーズ のみの機能です。	例 PC >:MEM:SAVE 0 現在の設定(出力周波数、出力電圧、制限電流、出力電圧レンジ)をメモリー A に格納します。
:MEMoy:LOAD 内容 メモリーの内容をロード 構文 :MEMoy:LOAD <data> <data> 0/1/2 (NR1 数値形式) 機能 指定メモリーから設定内容(出力周波数、出力電圧、制限電流、出力電圧レンジ)をロードします。 0:メモリー A 1:メモリー B 2:メモリー C 出力電圧レンジは CVFT1 シリーズ のみの機能です。	例 PC >:MEM:LOAD 1 メモリー B をロードします
:MEMoy:SETting:A 内容 メモリー A 登録 構文 :MEMoy:SETting:A <data1>,<data2>,<data3>,<data4> <data1> 出力周波数設定値 10.0~99.9 (NR1 又は NR2 数値形式) 100~1000 (NR1 数値形式) 単位 Hz、100Hz 未満は小数点以下 1 桁まで指定できます。 <data2> 出力電圧設定値 0~280.0 (NR1 又は NR2 数値形式) 単位 V、小数点以下 1 桁まで指定できます。 CVFT3 シリーズは、0~240.0V の範囲となります。 <data3> 制限電流設定値 0~80.0 (NR1 又は NR2 数値形式) 単位 A、小数点以下 1 桁又は 2 桁まで指定できます。設定範囲や小数点桁は、機種により異なります。 <data4> 出力レンジ 設定値 0/1/2 (NR1 数値形式) 0:レンジ 自動選択 1:140V レンジ 2:280V レンジ CVFT3 シリーズでは、0 指定としてください。 機能 メモリー A の登録内容を設定します。	例 PC >:MEM:SET:A 50.0,100,2.5,1 メモリー A に、 出力周波数設定値:50.0Hz 出力電圧設定値:100V 制限電流設定値:2.5A 出力レンジ 設定値:140V レンジ を、登録します。 レンジ 電圧やレンジ 電流の最大値を超える設定は、実行エラー(EXE ERR)となります。

:MEMory:SETting:A? 内容 メモリー A 登録内容の問い合わせ 構文 :MEMory:SETting:A? 応答 <data1>, <data2>, <data3>, <data4> <data1> 出力周波数設定値 10.0~99.9 (NR1 又は NR2 数値形式) 100~1000 (NR1 数値形式) 単位 Hz、100Hz 未満は小数点以下 1 桁の値を返します。 <data2> 出力電圧設定値 0~280.0 (NR1 又は NR2 数値形式) 単位 V、小数点以下 1 桁の値を返します。 <data3> 制限電流設定値 0~80.0 (NR1 又は NR2 数値形式) 単位 A、小数点以下 1 桁又は 2 桁の値を返します。範囲や小数点桁は、機種により異なります。 <data4> 出力レンジ 設定値 0/1/2 (NR1 数値形式) 出力電圧レンジの値を返します。 0:レンジ 自動選択 1:140V レンジ 2:280V レンジ CVFT3 シリーズでは、0 となります。 機能 メモリー A の登録内容を返します。	例 PC >:MEM:SET:A? CVFT >50.0,100,2.5,1 メモリー A の登録内容を返します。 出力周波数設定値:50.0Hz 出力電圧設定値:100V 制限電流設定値:2.5A 出力レンジ 設定値:140V レンジ
:MEMory:SETting:B 内容 メモリー B 登録 構文 :MEMory:SETting:B <data1>, <data2>, <data3>, <data4> 機能 data1~4 の構成は、:MEMory:SETting:A と同じです。 メモリー B の登録内容を設定します。	例 PC >:MEM:SET:B 50.0,100,2.5,1
:MEMory:SETting:B? 内容 メモリー B 登録内容の問い合わせ 構文 :MEMory:SETting:B? 応答 <data1>, <data2>, <data3>, <data4> 機能 data1~4 の構成は、:MEMory:SETting:A? と同じです。 メモリー B の登録内容を返します。	例 PC >:MEM:SET:B? CVFT >50.0,100,2.5,1
:MEMory:SETting:C 内容 メモリー C 登録 構文 :MEMory:SETting:C <data1>, <data2>, <data3>, <data4> 機能 data1~4 の構成は、:MEMory:SETting:A と同じです。 メモリー C の登録内容を設定します。	例 PC >:MEM:SET:C 50.0,100,2.5,1
:MEMory:SETting:C? 内容 メモリー C 登録内容の問い合わせ 構文 :MEMory:SETting:C? 応答 <data1>, <data2>, <data3>, <data4> 機能 data1~4 の構成は、:MEMory:SETting:A? と同じです。 メモリー C の登録内容を返します。	例 PC >:MEM:SET:C? CVFT >50.0,100,2.5,1

(4) 固有コマンド (GP- I Bのみ)

:ESE0		例 PC >:ESE0 3																
内容	イベント・ステータス・イネーブル・レジスタ 0 の設定	ESER0 の bit1, bit0 を 1 にします。 過温度、出力異常になるとステータス・バイト・レジスタ(STB)の bit0 (ESB0) が 1 になります。																
構文	:ESE0 <data> <data> 0~255 (NR1 数値形式)																	
機能	イベント・ステータス・イネーブル・レジスタ 0 (ESER0) の設定をします。 電源投入時は、0 に初期化されます。																	
<table><tr><td>bit7 128</td><td>bit6 64</td><td>bit5 32</td><td>bit4 16</td><td>bit3 8</td><td>bit2 4</td><td>bit1 2</td><td>bit0 1</td></tr><tr><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>ERR</td><td>IVE</td><td>OE</td><td>OH</td></tr></table>			bit7 128	bit6 64	bit5 32	bit4 16	bit3 8	bit2 4	bit1 2	bit0 1	-	-	-	-	ERR	IVE	OE	OH
bit7 128	bit6 64	bit5 32	bit4 16	bit3 8	bit2 4	bit1 2	bit0 1											
-	-	-	-	ERR	IVE	OE	OH											
:ESE0?		例 PC >:ESE0? CVFT >3																
内容	イベント・ステータス・イネーブル・レジスタ 0 の問合せ	ESER0 の bit1, bit0 が 1 の場合、3 を返します。																
構文	:ESE0?																	
応答	0~255 (NR1 数値形式)																	
機能	イベント・ステータス・イネーブル・レジスタ 0 (ESER0) の内容を 0~255 の NR1 数値形式で返します。																	
<table><tr><td>bit7 128</td><td>bit6 64</td><td>bit5 32</td><td>bit4 16</td><td>bit3 8</td><td>bit2 4</td><td>bit1 2</td><td>bit0 1</td></tr><tr><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>ERR</td><td>IVE</td><td>OE</td><td>OH</td></tr></table>		bit7 128	bit6 64	bit5 32	bit4 16	bit3 8	bit2 4	bit1 2	bit0 1	-	-	-	-	ERR	IVE	OE	OH	
bit7 128	bit6 64	bit5 32	bit4 16	bit3 8	bit2 4	bit1 2	bit0 1											
-	-	-	-	ERR	IVE	OE	OH											
:TRANsmit:TERMinator		例 PC >:TRAN:TERM 1																
内容	応答メッセージのターミネータの設定	応答メッセージのターミネータを CR + LF & EOI に設定します。																
構文	:TRANsmit:TERMinator <data> <data> 0/1 (NR1 数値形式) 0 : LF & EOI (電源投入後の初期値) 1 : CR + LF & EOI																	
機能	CVFT から PC への応答メッセージのターミネータ設定をします。 電源投入時は、パネル設定した値に初期化されます。																	
:TRANsmit:TERMinator?		例 PC >:TRAN:TERM? CVFT >0																
内容	応答メッセージのターミネータの問合せ	応答メッセージのターミネータが LF & EOI の時 0 を返します。																
構文	:TRANsmit:TERMinator?																	
応答	0/1 (NR1 数値形式) 0 : LF & EOI 1 : CR + LF & EOI																	
機能	CVFT から PC への応答メッセージのターミネータを返します。																	

(5) 固有コマンド (RS-232Cのみ)

:MODE 内容 RS-232C リモートモード/ローカルモードの設定 構文 :MODE <data> <data>0/1 (NR2 数値形式) 0 : ローカルモードにします。 1 : リモートモードにします。 機能 RS-232C インターフェースによるリモートモード/ローカルモードの切替を行います。装置情報の読み出しはローカルモード中でも可能ですが、機器の設定は、リモートモード中のみ行えます。ローカルモード中の各種設定コマンドに対しては、実行エラーを返します。	例 PC >:MODE 1 CVFT >OK RS-232C によりリモートモードに切替えます。
:MODE? 内容 RS-232C リモートモード/ローカルモードの問合せ 構文 :MODE? 応答 0/1 (NR2 数値形式) 0 : ローカルモード状態です。 1 : リモートモード状態です。 機能 RS-232C インターフェースによるリモートモード/ローカルモードの状態を問合せます。	例 PC >:MODE? CVFT >1 RS-232C によりリモートモード状態の時は 1 を返します。

(6) 機種依存値一覧

機種名		電流値				電力値
		測定電流 FS[A]	制限電流 設定範囲[A]	リミット電流 設定範囲[A]	小数点以下 桁数	測定電力 FS[kW]
CVFT1	D500	5.00	0～4.00	0.10～4.00	2	0.75
	D1000	10.00	0～8.00	0.10～8.00	2	1.50
	D3K	30.0	0～25.0	1.0～25.0	1	3.75
	D5K	50.0	0～40.0	1.0～40.0	1	7.50
	D10K	100.0	0～80.0	1.0～80.0	1	15.00
CVFT3	D500	2.00	0～1.50	0.10～1.50	2	0.75
	D1000	3.50	0～3.00	0.10～3.00	2	1.50
	D3K	10.00	0～9.00	0.10～9.00	2	3.75
	D5K	20.0	0～15.0	1.0～15.0	1	7.50
	D10K	35.0	0～30.0	1.0～30.0	1	15.00

(7) パラメータについて

- ・数値の精度が取扱い範囲を超える場合、四捨五入して扱います。

例) 9.99V → 10.0V